

特定非営利活動法人 丹波ひとまち支援機構

2024（令和 6）年度〔第 5 期〕

事業報告書

2024（令和 6）年 4 月 1 日～2025（令和 7）年 3 月 31 日



2024（令和 6）年度【第 5 期】事業報告書

〔期間〕 2024（令和 6）年 4 月 1 日から 2025（令和 7）年 3 月 31 日

1. 事業概要・成果

当法人は、設立年である 2020 年から 10 年間を特に地域が大きく変容する時期と捉え、持続可能な地域づくりと自治の再興に取り組んでいます。その中でも 2024 年度は当法人が拠点とし、ミッション実現にむけて取り組む中心であるまち、丹波市が市政 20 年を迎え、丹波市長選挙・市議会議員選挙も執り行われた節目の重要な年度でした。

実質 4 期目、2030 年を見据え、市政への参画と市民協働、住民自治のあり方の見直しを重要なキーワードに、これまで以上に率先して取り組むべきことを、地域・分野ともに活動を広げてきました。収入ベースでは年 4,000 万円を超える組織に成長し、昨年度以上に県内外に法人の活動や存在意義を、知っていただく機会も増えてきました。

丹波市市民プラザ・市民活動支援センターの指定管理者として 3 年度目となり、一昨年度掲げた 2025 年度までの 3 年間の目指すべき姿をふまえ、丹波市内における、市民活動・社会教育（生涯学習）・地域自治支援の 3 つの事業の柱を着実に推進してきました。

市民プラザの運営では、みんなでづくり・育てる拠点として「プラザ市民会議」を機会とした、利用団体・市民の企画立案と参画で新たな企画 3 つに取り組み、団体の情報発信、市民の学びやネットワーキングに新たな手法で貢献し、新聞メディア含め注目と参加を集めました。

地域自治支援では、地域支援に従事する地域おこし協力隊と新たに採用した地域伴走支援者と、自治協議会の見直し・在り方の検討を支援する重点支援（ミライン）に、地域・住民に伴走しながら取り組みを進めました。重点支援地域は 1 つ増えた一方、1 地域が休止となりましたが、自治協議会の役割やあり方についてその地域に合わせた具体化が進んだ地域もあり、新たな自治協議会のあり方のモデル、見直しの進め方が具体化されつつあります。自治会の見直し・再編の支援は丹波市地域再生アドバイザー制度や県地域再生アドバイザー制度を活用し、自治会の主体性を重視しながら、自治会の見直しにも伴走する取り組みを進めてきました。

課題としては、丹波市と協働した市民活動、地域自治支援の体制が十分に構築できていないことがあります。これまでから政策提言含め連携を模索し、課題や施策展開について協議してきましたが、十分に進んでいません。当法人の協働姿勢にも反省すべきことがあることは認識し、改善を図ってきていますが、市の市政運営及び協働に対する理解や施策、姿勢や体制にも問題があります。本事業報告書の具体内容には記載していませんが、丹波市市民プラザ指定管理者に対する市の中間評価では「改善が必要」とされました。当法人としては、この評価は適切な情報や評価機関に基づくものとは考えられず、理事会及び全スタッフ連名で事実と今後の改善について伝える「意見書」を提出するに至りました。来年度以降の丹

波市と協働した事業では、市の変化や改善も見極めながら丁寧かつ慎重な検討と対応が必要になっています。

社会教育（生涯学習）支援の分野では、丹波市の予算化、助成金の活用もあり、地域学校協働活動の推進にむけた取り組みを前に進めることができました。ステークホルダー間の学びや連携の機会をさらに広げることができました。来年度以降も市と協働した地域学校協働や図書館ほか社会教育関係の市民参加と人材育成の取り組みを前に進めていく予定です。

市民活動支援では丹波市市民活動支援センターを中心に、研修や講座、相談対応に引き続き取り組んできました。また、周辺地域の支援ニーズ・支援機関の不足や当法人の専門性への認識の広がりもあって、丹波篠山市内の法人が運営する県の「地域しごとサポートセンター丹波」のコミュニティビジネス支援での連携を継続、さらには中間支援のあり方を検討する全国的取り組みのシンポジウムへの登壇、県内外9つの中間支援団体と連携した中間支援機能の構築（当法人は西脇市の中間支援機能の再構築にむけたインキュベーションに従事）に取り組むなど、市民活動支援の基盤を強化する取り組みにも貢献してきました。

丹波市外においても、昨年度に続き、近隣地域で行政だけでなく民間や住民自治組織含め講師派遣や支援の依頼が継続しており、法人として学びや支援の価値創出、事業継続につながっています。また、代表理事に限らず、講師を複数のスタッフで務めていることは、組織としての成長の証です。

調査研究事業では、昨年度に続き、兵庫県持続可能な多自然地域プロジェクトによる地域支援ツールの開発に従事、丹波県民局等との地域支援に関する情報交換・研究会など、これまでの実績ももとに、県の地域支援施策や事業へ参画、丹波でのノウハウを他に広げ、兵庫県内外の地域支援に関する知見やネットワークを得ることができ、丹波での事業に日々活かすことができました。また、朝来市では、昨年度の小規模集落・地域自治協議会の調査を踏まえた地域コミュニティの在り方検討業務を受託、「地域協働の指針」改定にむけた段階を踏んだ検討プロセスの支援は、地域自治の見直しへの貢献だけでなく、調査研究・コンサルティング事業でのチャレンジであり、組織の専門性の向上にもつながる事業でした。

今年度、特に市民参加の機会と機運醸成に成果を挙げた事業は、延べ数千人の市民がWSや討論会に参加するなどした「TAMBA2030」です。丹波市長選挙・市議会議員選挙を機会とした、市政参加と市民が将来を考え、対話し、投票という重要な参加機会を活かすための、参加型の調査研究・政策提言の取り組みとして、地域自治の再興と持続可能な地域社会の創造にむけた1つの大きなきっかけをつくることができました。

運営体制では、中山間地での中間支援組織である当法人の「組織のあり方・経営の考え方 方針」をもとに、サポートスタッフとも連携した柔軟かつ1人ひとりの状況や専門性に応じて関われる組織づくりを進めてきました。労務・会計を担当するスタッフを採用し、事務局体制を強化することもできました。これからはしなやかで1人ひとりの働き方と能力・専門性が大切にされる組織づくりを進めていきます。

事業規模拡大から税理士のチェックも必要と考え、連携先を探りましたが、地域や事業特性からご縁がありませんでした。専門家の関与も含め、健全かつ適正な経営にむけた体制づくりに引き続き取り組んでいきます。

2. 事業全体像 (NPO 法上の事業区分)

*当法人は特定非営利活動に係る事業のみを行う

定款の 事業名	具体事業名	実施時期・ 回数	実施場所	受益対象者 人数のべ	事業費 総額 (千円)
(1) 地域づくり・ 市民活動支 援事業	①地域支援アドバイザー派遣事業	16 回程度	丹波市内	自治協議会関係 者・自治体職員 等 延べ約 200 人	7,343
	②連携交流事業	1 事業 10 回程度	西脇市内 神戸市内 オンライン	西脇市内・県内 中間支援団体等 延べ約 100 人	
	③地域づくり・市民活 動実務支援事業	17 回程度	丹波市内	4 団体	
	④地域伴走支援事業	通年	丹波市内	丹波市内自治協 議会等 延べ約 500 人	
(2) 人材育成・生 涯学習支援 事業	①講師派遣事業	10 回程度	丹波市内・ 西脇市内ほか 兵庫県内 京都府内等	講座・研修 参加者 延べ約 800 人	1,511
	②講座・研修事業	6 回程度	丹波市内	講座・研修 参加者 延べ約 200 人	
(3) 支援拠点管 理・運営事業	①丹波市市民活動支 援センター管理・運 営事業	通年	丹波市内	丹波市民・団体 延べ約 2 万人	25,865
(4) 地域づくり に関する調 査・研究事業	① 集落調査事業	12 回及び 1 件	兵庫県内	3 自治体	2,254
	②地域のあり方調査研究 事業	通年	兵庫県及び 丹波市内 朝来市内	2 自治体及び 丹波市民延べ 5,000 人	
(5) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業：実施せず					

3. 事業内容

日々の具体的な事業実施の情報やメディア掲載履歴はウェブサイトで公開しています。

<https://tam-en.org>

(1) 地域づくり・市民活動支援事業

①地域支援アドバイザー派遣事業

●丹波市地域再生アドバイザー派遣事業

- 単位自治会・集落からの相談・依頼を受けて、会議や自治会見直し・調査等の助言をするアドバイザーの派遣 [丹波市からの謝金及び一部は県からの謝金]

単位自治会・集落からの相談が増加していることや自治協議会を主体とした地域づくりに向けた重点支援に不可欠かつ重要であることから個別自治会に対して支援を実施した。スタッフが丹波市地域再生アドバイザー派遣業務のアドバイザーに登録し、相談内容や自治会の状況に応じて、連絡調整をし、アドバイザーとして自治会の会議等に入ったり、アンケート調査の検討や分析を支援した。

・春日町春日部地域	多利自治会	(4回)	・山南町和田地域	五ヶ野自治会	(8回+α)
・市島町吉見地域	梶原自治会	(4回)			

昨年度助言していた丹波市自治会長会発行の自治会長手引きが発行され、自治会の見直しの手順や必要性やアドバイザー制度について紹介された。また実質、自治会からの相談を受け、適任のアドバイザーを調整、派遣する対応も行ったこと、年度途中で市のアドバイザー派遣予算を超え、県地域再生アドバイザー制度を使った派遣も行われたことから来年度はさらに相談も増えると想定される。来年度はこれら調整部分も含めた委託業務として丹波市から受託し、地域からの相談に柔軟な対応ができる体制で取組を進める。



●アドバイザー派遣から派生する組織的な支援等

上記の派遣業務の中で、派遣謝礼金を財源に、アンケート調査分析等の支援を行った（再掲）

●その他：地域自治組織からのアドバイザー派遣依頼への対応

その他地域自治組織からの支援依頼について、講師派遣やマッチング等で対応した（別掲）

参考 その他役員・スタッフが個人として関わった支援

●兵庫県地域再生アドバイザー（代表理事：戸田）

- 佐用町平福地域、徳久地域、兵庫県市町アドバイザーリーボードアドバイザーほか

●佐用町地域づくりアドバイザー（代表理事：戸田）

- 佐用町地域づくりにかかるアドバイザー会議、みん活フォーラム ほか

●姫路市地域活性化アドバイザー派遣（代表理事：戸田）

- 白浜町中村自治会 ICT 導入研修ほか

②連携交流事業

●三市（福知山・丹波・朝来）連携交流事業

- 令和 6 年度「三市連携まちづくり互近助サミット」の企画・運営支援

福知山市・丹波市・朝来市の地域自治組織の交流・学び合いの場として、昨年度まで受託していたが、今年度は依頼なく、実施しなかった。

●内閣府「孤独・孤立対策担い手育成支援事業」

- 孤独・孤立対策のための中間支援 3.0「ひょうごモデル」推進事業のうち、中間支援インキュベーション事業 [コンソーシアム代表団体：ひょうごコミュニティ財団からの受託]

昨年度と同種の国の補助金を活用し、兵庫県内 6 つの中間支援団体と県外 3 つの中間支援団体とコンソーシアムを構成し、中山間地の中間支援機能の整備の課題を踏まえ、中間支援機能の再構築あるいは新たな構築を目指す地域における支援機能インキュベーションに取り組んだ。

具体的には西脇市の中間支援事業を新たに受託した「みんぐる」による支援拠点の運営と地域自治組織の支援にむけた体制づくりや支援現場の OJT とフォローアップによる支援に取り組み、モデル推進事業全体の研究会や報告書の作成、報告会等に参画した。詳細はひょうごモデル推進事業報告書を参照いただきたい。



https://hyogo.communityfund.jp/site-r/wp-content/uploads/2025/04/kodokukoritsu_hyogo_houkoku2024.pdf

③地域づくり・市民活動実務支援事業

●市民活動団体・自治協議会・自治会等実務支援

- PR や研修等のための資料デザイン・印刷の支援

[対象団体からの報酬]

団体活動について相談を受けるなどしたことを受けて、以下の3団体について、参加者募集の広報、チラシづくりや研修資料作成をサポート、印刷注文に対応した。

- ・丹波市市島町梶原自治会：研修資料の印刷（6月）
- ・大阪相撲甚句会 丹波相撲甚句健康教室：プレスリリース資料印刷（9月）
- ・丹波がん患者と家族の会 たんぽぽの会（昨年度から継続）：チラシの改定・作成（2月）

➤ 社会福祉法人青垣福祉会 中期経営計画の策定にむけたアドバイス [対象団体からの受託]

社会福祉法人に求められる3ヶ年の経営計画の策定にむけて、地域に開くこども園の運営や青垣地域全体の地域づくりへの参画などを具体化するため、全体検討会議と小委員会の話し合いのファシリテーションと内容や計画とりまとめに



関する助言を行った（計8回の会議とその準備）。園職員や役員の参画、対話やアイデアを入れながら計画を整理し、3月に中期経営計画を役員、事務局中心に取りまとめることができた。

●市民活動・地域づくりに関する行政事業の支援

収入が発生する事業は特に行わなかった（後述の丹波市市民プラザ指定管理事業や他事業の中で支援を行った）。

④地域伴走支援事業

●地域おこし協力隊の配置による地域自治組織の伴走支援

➤ 地域おこし協力隊と協働した地域支援

[丹波市からの受託]

自治協議会の見直しにむけた全体研修、重点支援（個別支援、伴走支援）の支援をミッションとした地域おこし協力隊を引き続き受け入れ、必要な研修機会も設けながら、当法人スタッフと協働して丹波市内の自治協議会の支援に取り組み、能力を高め、地域からの信頼を得ながら重要な人材として支援に携わることができた。

主となる活動は丹波市市民活動支援センターによる地域の未来デザインプロジェクト（自治協議会の重点支援）や地域支援であり、関わった事業はセンター事業報告書等を参照。



- ・継続し、協力隊を受け入れ、活動管理（4月～）
- ・毎月のスタッフミーティングや、兵庫県による地域再生アドバイザー研修（初級・中級）の受講、スタッフ外部研修への同行等による人材育成（4月～）
- ・活躍の様子は丹波市移住定住ポータルサイトにもインタビュー記事掲載

<https://teiju.info/interview/16239>

●地域伴走支援体制整備事業による、地域自治組織・自治会等の伴走支援

➤ 地域伴走支援者の募集及び採用と連携した地域支援

[丹波市からの受託]

昨年度、採用決定した地域伴走支援者1名を雇用し、必要な研修も行いながら、当法人スタッフと協働して丹波市内の自治協議会の支援に取り組んだ（～9月末）。主となる活動は丹波市市民活動支援センターによる地域の未来デザインプロジェクト（自治協議会の重点支援）や地域支援であり、関わった事業はセンター事業報告書等を参照。



地域伴走支援者の個人キャリアの都合から、9月末に退職したため、10月～地域伴走支援者を募集、2月末に来年度からの採用者1名を決定した。不在期間は支援者の募集のみを行い、日々の地域支援は、丹波市市民活動支援センタースタッフと上記地域おこし協力隊による支援によって取り組んだ。



(2) 人材育成・生涯学習支援事業

①講師派遣事業

●地域自治組織、市民活動団体、自治体等団体への講師派遣

➤ 地域自治組織への講師派遣

[派遣先からの謝金やアドバイザー制度報酬等]

今年度はこれからの自治会の在り方や見直し、女性参画等をテーマにした研修依頼が目立った。今後さらに関心が高まるテーマであることも踏まえ、依頼に合わせて講師派遣や研修を実施していく。



- ・西脇市連合区長会（事務局：西脇市都市経営部まちづくり課）研修会「地域の大きな変化をふまえた みんなで進める地域づくり」（1月）
- ・丹波市 ふるさと和田振興会 男女共同参画研修会・自治会等向け研修「ともに考えよう～これからの自治会のあり方」（2月） など

➤ 市民活動団体への講師派遣

[派遣先からの謝金等]

中間支援を考えるシンポジウムは全国からも注目を集め、後日アーカイブ視聴も含め 500 人以上の参加があった。その内容はメディア等でも取り上げられた。

ワークショップやファシリテーション等の現場で連携した丹波 JC からはそのノウハウを学びたいと研修の依頼があった。



これまで支援に取り組んできた中で培ってきた知識やスキルを講師派遣や研修を通して、社会に広げていくことに引き続き取り組んでいく。

- ・中間支援機能に関する研究会「これからの中間支援を考えるシンポジウム（兵庫）」パネリスト（7月）
- ・丹波青年会議所「ファシリテーション研修」（11月） など

➤ 自治体等団体への講師派遣

[派遣先からの謝金等]

中間支援施設の見直しや行政と市民の協働、地域学校協働活動の推進等、当法人が取り組んでいる実績を評価いただいての講師や情報提供者としての依頼が目立った。いずれも



今後自治体に必要なテーマとなる話題で、講師としても学びにつながる機会となった。

- ・舞鶴市「舞鶴市西市民プラザの運営方針に関する意見交換会」ゲスト（別事業で支援を行う西脇市「みんぐる」を紹介・同行）（1月）
- ・京都府南丹教育局「子育てサポーターズフォーラム」（12月）
- ・NPO 政策研究所他「第Ⅷ期（2024年度）市民自治講座「参画・協働」によってまちは変わったか」（12月） など

●地域しごとサポートセンター丹波 相談・研修事業への講師派遣等協力

- 地域しごとサポートセンター丹波と連携した相談対応 [丹波篠山キャピタルからの委託]
兵庫県が県民局単位で設置しているコミュニティ・ビジネス等の支援を行う「地域しごとサポートセンター」の丹波地域の機能を担う丹波篠山キャピタルからの依頼を受け、今年度も引き続き、丹波市域での相談窓口の情報発信や、市内での事業相談に対応した（市内起業予定の2名・社）

●審議会等への委員派遣

- 丹波市の各種委員会への委員派遣・審議への参加
 - ・ 丹波市教育振興基本計画審議会
審議会（年度内計7回）にスタッフ蔦木（公募委員として）が出席した。
 - ・ 丹波市生涯学習基本計画審議会
審議会（年度内計6回）にスタッフ蔦木（社会教育関係者として）が出席した。
 - ・ 丹波市立図書館協議会・「丹波市図書館ビジョン」策定コアメンバー会議
審議会・会議（年度内計6回）にスタッフ蔦木（社会教育関係者として）が出席した。また図書館ビジョン策定にかかる市民ワークショップ（計3回）にも参加した。
 - ・ 丹波市社会教育委員の会議
会議（年度内計4回）にスタッフ蔦木（社会教育関係者として）が出席した。
 - ・ 丹波市地域福祉計画推進協議会
協議会（年度内計2回）にスタッフ足立（どんぐり食堂代表の立場として）が出席した。
 - ・ 丹波市ボランティア・市民活動センター運営委員会
11月の運営委員会にスタッフ一宮（運営委員として）が出席した。
 - ・ 丹波市男女共同参画審議会
9月の審議会にスタッフ足立が出席した。
- その他情報交換やネットワーク会議の場への参加
 - ・ 兵庫県丹波県民局/丹波の森研究所/丹波の森協会
県民局主催、丹波地域2市と丹波の森研究所と当法人（受け入れている丹波市地域おこし協力隊含む）が参加する意見交換会に計4回参加し、日頃の地域支援の情報共有とともに、研

究活動として、主に校区単位での地域情報のデータベースが今後の自治体運営や地域支援に必要であること（地区カルテ）について他事例や実践等の情報をもとに情報交換、検討を行った。

- ・ ひょうご中間支援団体ネットワーク

引き続き、ネットワークに加盟し、定例全体会のうち1回（3月）に参加し、NPO 会計に関する勉強と情報交換を行った。

参考 その他役員・スタッフが個人として関わった支援

●コミュニティ・スクールへの支援

- 東小学校学校運営協議会にオブザーバーとして参加（蔦木）
- 柏原中学校の熟議に関するアドバイス（蔦木） など

●学校図書館運営への支援

- 北小学校の学校図書館の本の整理プロジェクトにアドバイザーとして参加（蔦木） など

●学校への授業支援

- 県立柏原高校カリキュラム開発専門家として、高校の授業・地域連携に従事（一宮） など

●兵庫県の事業や研修等

- 市町職員対象の地域づくり研修、地域再生アドバイザー向け研修講師（戸田） など

②講座・研修事業

●丹波「学校を核とした地域づくり」プロジェクト

- 「地域づくりはひとづくり」 たんば地域教育フォーラムの開催
- 地域学校協働活動マップの作成

[自主事業・助成金活用]

<https://tam-en.org/forum20250119/>

今年度は、3 年間のプロジェクトの最終年であった。市民が中心になった地域課題の解決に活かす学びの場づくりとして、今年度は、「子どもも大人も学び合い、育ち合う、誰もが楽しく参画できる地域づくりをめざして」をテーマに、学校協働活動活動に関わる人々の連携を深めるとともに、地域学校協働活動を地域住民や市民に周知し、その活動のすそ野を広げるため、フォーラムを実施した。また、丹波市内の小学校 2 校（船城小学校・東小学校）と中学校 1 校（柏原中学校）と連携し、地域学校協働活動マップの作成を進めた。

2025 年 1 月 19 日（日）に『「地域づくりはひとづくり」たんば地域教育フォーラム』を開催した。島根県益田市豊川地区における学校教育と社会教育の連携や、「対話」を通じた協働のひとづくりの事例、丹波市立東小学校のコミュニティ・スクールの実践の話を通して、誰もが安心して暮らし続けることができる地域をつくるためには、子どもから大人までが、学び合い、実践するなかで、ゆるやかにつながっていくことが大切であることを学び合った。

・講演

「ほしい未来は自分たちでつくる ～地域づくりはひとづくり～」

ゲスト講師：地域自治組織「とよかわの未来をつくる会」 顧問 河野 利文氏

・丹波市内の実践報告

「子どもをど真ん中に学校・地域の魅力発信～つながろう東小コミスク～」

丹波市立東小学校 学校運営協議会（東小コミスク）

学校運営協議会会長 足立 恵宣氏 / 地域学校協働活動推進員 松井 崇好氏



●丹波市地域学校協働活動等推進人材育成研修の企画・運営

➤ 丹波市地域学校協働活動等推進人材育成研修

[丹波市からの受託]

<https://tam-en.org/chikigakkoukyoudou2024/>

今年度、丹波市教育委員会 社会教育・文化財課の「地域学校協働活動等推進人材育成研修業務」の企画・運営をした。この研修は、地域や学校、地域学校協働活動や地域づくり事業等の推進役が同じ視点で地域づくりや人材育成の必要性を認識するとともに、地域学校協働活動及び地域コミュニティ活動推進員等のコーディネーション能力の向上を図ることを目的としている。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動における専門家や先進事例の実践者を講師に招き、地域学校協働活動推進員、地域コミュニティ活動推進員、学校支援コーディネーター、教頭、丹波市教育委員会職員、丹波市まちづくり部職員向けに、計 4 回開催した。

[第 1 回] テーマ：「丹波市が目指す学校を核とした地域づくりとは」

・講 師：志々田 まなみ氏 （国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官）

[第 2 回] テーマ：「地域・社会に開かれた教育課程の実践」

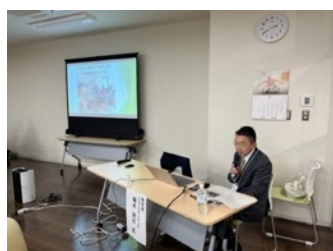
・講 師：安田 隆人氏 （岡山県教育庁 地域学校協働活動アドバイザー／社会教育士／
文部科学省 CS マイスター／岡山県浅口市立寄島小学校 元校長）

[第 3 回] テーマ：「学校と地域の連携・協働の実践事例から学ぶ」

・講 師：安田 隆人氏 （岡山県教育庁 地域学校協働活動アドバイザー／社会教育士／

[第4回] テーマ：「子どもと大人が交わる場をつくるには」

- ・講 師：福田 範史 氏 （鳥取県南部町 教育長／文部科学省 CS マイスター）
- ・実践報告：植木 政行 氏 （丹波市立青垣小学校 校長）



●丹波市における「地域から考える学びの未来会議（ミラカイ）」への参加

➤ 「地域から考える学びの未来会議（ミラカイ）」への参加

ミラカイコアメンバー、教育委員会社会教育・文化財課、学校教育課、教育総務課、まちづくり部市民活動課が連携・協働して、会議を開催した。青垣地域の青垣小学校、認定こども園あおがき、青垣アフタースクールを見学した。

●丹波市内における地域・自治協議会のあり方見直しに向けた視察研修（自治協議会等対象）

必要に応じて、実施する予定であったが、今年度は実施しなかった。

●多様な主体による「対話の場」づくり

市民活動支援、地域支援、企業とのネットワークの中で企画を検討したが、その適時がなく、今年度は実施しなかった。また昨年度まで開催していた「議会の参観日」は今年度「調査研究事業」において実施した、市長・市議選を機会とした討論会等を優先し、開催しなかった。

(3) 支援拠点管理・運営事業

①丹波市市民活動支援センター管理・運営事業

[丹波市 指定管理事業]

<https://www.tamba-plaza.jp/>

詳細は「2024 年度丹波市市民プラザ・市民活動支援センター指定管理業務報告書」に記載（閲覧は法人までお問い合わせください）

市民活動支援センター運営	●受付管理業務：フロア利用 18,063 人（58.8 人/日）、チラシ受付 579 件 ●施設利用件数：1,108 件 ●フロア管理業務：サイネージ、市民プラザ内サイン作成、チラシ配架、ポスター掲示、消毒液の補充 等 ●市民プラザ全体会議（入居するセンター・団体の会議）の企画・運営：10 回
市民活動団体・イベント等情報の収集・発信	●情報誌『tamtam』：第 28 号～第 33 号発行 ●講師紹介・派遣：8 件（スポーツクラブ 21 氷上東、猪名川町まちづくり向上委員会など） ●市内外先進事例視察： 外部研修（1 泊 2 日、岡山県）、兵庫県地域再生アドバイザー研修（初級 3 回、中級 2 回、オプション講座 1 回） ●補助金情報の収集：年 8 回配信 ●市民プラザからの情報発信： - ポータルサイト更新（更新 103 件）、SNS（フォロワー数 facebook621、Instagram187）、新聞アーカイブ 906 件、ステークホルダー（登録件数 915 件＊公共施設等除く）、図書の充実（80 冊追加）、ダイレクトメール（年 10 回）、アウトリーチでの情報収集・提供 - 登録団体特別展示：9 団体、自治協議会等情報誌掲示：22 地域（その他、自治会なども発行に応じて都度掲示） ●ラジオ FM805 たんばでの番組、情報発信（月 1 回 30 分番組／再放送あり）：第 73 回～第 84 回
各種相談への対応及び専門的な支援会議の開催	●相談対応：128 件 - NPO 法人設立について、団体活動における体制の整備や広報の方法について 他
交流事業の開催、マッチング及びコーディネート	●サロン事業：2 回（居場所づくり実践者のためのリフレッシュサロン、防災意識を高めたい人 がっつり防災ゲーム体験会） ●地域づくりに関わる企業ネットワーク（通称はまころ）会議 8 回 ●各種機関や関連部署等との交流連携・マッチング・コーディネート - トライやるウィーク中学生 3 名の受け入れ、関係する審議会などへの参加（丹波市教育振興基本計画審議会、丹波市生涯学習基本計画審議会、丹波市立図書館協議会・「丹波市図書館ビジョン」策定コアメンバー会議、男女共同参画審議会、丹波市社会教育委員の会議、地域福祉計画推進協議会、丹波市ボランティア・市民活動センター運営委員会、兵庫県民局主催の意見交換会、丹波市支え合い推進会議）、ひょうご中間支援団体ネットワークへの継続加盟および定例会への出席など ●センター運営への市民参加・利用者とのコラボレーション - 利用者アンケートの実施・分析、市民プラザプレイスメイキング企画「ざぶとん洗

	濯プロジェクト」の実施、一般社団法人 am*am さんとの連携、氷上子育て学習センターのイベント参加、「お願いポスト-あなたの願いを全力応援ポスト-」の実施、「市民プラザおたのしみ会」「かるた DAY」などのイベント開催、活動市民プラザをよりよく・楽しくする市民会議の開催 など ●調査・研究 各研修参加、新聞アーカイブ、関係する審議会等への参加・情報収集（再掲）
人材育成	●地域づくり講座：2 講座開催 ①「ウェブで情報管理ができるようになる講座」（講師：スタッフ吉田） ②「誰かに届く」から「あなたに届ける」広報のコツ（講師：スタッフ玉木） ●ちいきのもやもや座談会 ①「誰もが参加しやすい自治会活動」 ゲスト：岸本雅世さん（久下自治振興会元会長） 伏田尚徳さん（三輪地区自治振興会会長） ●みんながセンセイ！みんなが生徒！たんばまなびのマルシェ 合言葉は「みんながセンセイ！ みんなが生徒！まなびを楽しもう」。生涯学習・社会教育事業の1つとして、市民が学んだこと・得意なことをもとに講師となり、市民プラザを会場として講座・WS など学びの場をつくった。スタッフが講座づくりの伴走支援を行い、会場提供、広報支援も行なった。今年度は「まちとわたしの大交流会」と同時開催をした。 ●市民活動支援センタースタッフ育成の研修 ●丹波「学校を核とした地域づくり」プロジェクト（再掲）
団体運営支援	●アウトリーチによる情報発信・相談・運営支援：市民活動団体訪問数：35 回 ●市民活動団体の課題や悩み等の把握 窓口での相談対応や、日頃から関係のある団体との情報共有を積極的に行い、団体の悩みはもちろん、地域の課題などの把握に努めた。 ●市民活動団体への個別支援体制の構築 窓口から個別に対応できる体制を整え、各相談に対応。特に、認定こども園あおがきの中期経営計画について（以降指定管理者の法人にて対応）やスポーツクラブ 21 氷上東の NPO 法人設立相談には個別で対応した。

政策提言	●行政計画策定プロセスにおける市民参加の推進 行政計画策定への市民参加の方法について、必要に応じて担当課と協議。パブコメミーティングの開催については担当課からの連携依頼に応じ実施することとなり、教育振興基本計画のパブコメミーティングを開催した。その他、計画については一部チラシの送付やウェブなどでの周知について、連携および協力した。 ●行政議会と市民の対話の場づくりへの支援 丹波市による市民の対話の場づくりの試み自体が少なく、当団体への連携や支援の提案にも前向きな対応がなかったため、取り組むことはなかった。 ●その他政策提言 市総合計画の方針についての見せ方や市政分野に関しての提言をはじめ、農業委員会や社協・市議会への助言や情報提供などを行った。
地域支援	●アウトリーチによる市民活動団体支援：訪問数 328 回 定期的に各自治協議会の拠点施設へ訪問、積極的にコミュニケーションを図った。 ●地域支援： ・重点支援：自治協議会の見直しに向けた通称ミラインについて、昨年度から開始している 6 地域（遠阪、鴨庄、佐治、久下、神楽、芦田）への支援を継続。今年度から新たに 1 地域（中央）へ、住民アンケート実施・分析支援を開始した。 ・スポット支援：自治協議会各地への定期訪問や相談対応、地域における研修の助言や講師対応、住民アンケートなど専門技能の支援 ・全体支援：地域コミュニティ活動推進員連絡会議を 3 回開催、ニュースレターを 2 回発行、全自治協議会対象の全体研修を実施した。
調査研究	●丹波市の全自治会を対象とした多様な担い手と女性参画に関するアンケート調査の実施、分析、公表（丹波市男女共同参画センターと協働） 自治会の役員構成の多様性と 多様な住民の参画に関する調査 一集計・分析結果一 2025年1月 丹波市市民活動支援センター 丹波市男女共同参画センター
丹波市市民プラザ大交流会	●今年度は、イベント全体の実行委員会を組成せず、企画ごとで内容調整や参加者同士の交流を図った。今年度は「みんながセンセイ！みんなが生徒！たんばまなびの

2024

マルシェ」を同時開催で開催した。

- 来場者：のべ約 830 人
- 活動 PR 出展団体：9 団体
- ステージ発表団体：5 団体
- その他参加企画：オリジナルクリスマスカードづくり、市民活動応援チャリティが
ちやの実施、絵本読み聞かせ



(4) 地域づくりに関する調査・研究事業

①集落調査事業

●集落・自治会の見直しに向けた調査

- 集落や自治会のカルテづくりやアンケート等の調査事業を、地域伴走支援や地域アドバイザー派遣の進捗の中で行った（再掲）

●集落進路ゲーム（仮称）の企画・製作・普及

- 集落進路ゲーム（仮称）の企画 [自主事業]
ゲームの全体設計を含め、企画を進めている。8月には試作版を作成し、テストプレイを実施した。検討・改善を進めつつ、来年度には完成を目指す。

●その他研究会・調査・検討会議への参画

- 兵庫県持続可能な多自然地域プロジェクト シンクタンクプロジェクトチームへの参加（後述の調査業務と関連）
戸田代表理事がシンクタンク PT の委員として会議に参加、6回の PT 会議及び後述の地域支援ツールの実証実施への同伴など、約 8 回程度、チームの活動・会議に参画し、ツール等について、地域支援の現場から意見を述べ、情報を提供した。
- 地域支援に関する情報交換会への参加（再掲）
丹波県民局・丹波の森研究所・丹波市・丹波篠山市と地域支援に関する情報交換会に参加。年 4 回の会議を重ね、特に地域カルテの作成、調査研究について情報提供。来年度以降も継続する予定。

②地域のあり方調査研究事業

●朝来市地域コミュニティの在り方懇話会支援業務

- 朝来市地域コミュニティの在り方懇話会及び WG、指針策定支援 [朝来市からの受託]
昨年度在り方検討にむけた調査研究事業を担った経緯から、今年度はその成果を踏まえた在り方懇話会の支援、また成果物として「地域協働の指針」の改定にむけた支援を行った。
具体的には懇話会（計 4 回）にむけた資料作成・会議支援・記録作成、懇話会に付属させたワーキンググループ（4 テーマ・計 13 回）の資料作成・会議支援・記録作成、指針案の起草・作成・デザイン、自治協議会ごとの市民まちづくりフォーラムでの指針の概要の説明支援、記録作成、意見整理、指針案のデザイン等を行った。
予定では今年度に指針を改定するものであったが、懇話会や座長、また市の意向により、パブリックコメントの実施や懇話会での議論を引き続き丁寧に行うこととなり、来年度も継続す

ることとなり、今年度実績に基づく収入のみを得た。

来年度はパブリック・コメントの実施、とりまとめ支援、指針と指針概要版のデザイン、印刷、市職員や自治協議会向けの説明会などを継続して行う。

- ・朝来市地域コミュニティの在り方懇話会（5、8、12、3月 計4回）
- ・自治組織の関係性ワーキンググループ（6、7、12月 計3回）
- ・自治協議会のあり方ワーキンググループ（6、7、12月 計3回）
- ・生活課題対応ワーキンググループ（6、7、12月 計3回）
- ・支援体制ワーキンググループ（6、7、12、2月 計4回）
- ・市内11地区でのまちづくりフォーラムへの参加・記録補助（10-11月 10回）
- ・その他懇話会座長、WG長との打合せ（随時）



●兵庫県持続可能な多自然地域づくりプロジェクト 地域支援ツール開発（その2）

- 地域支援ツールの開発、調査研究（支援の見立てツール）

[他事業者との連携：兵庫県からの受託]

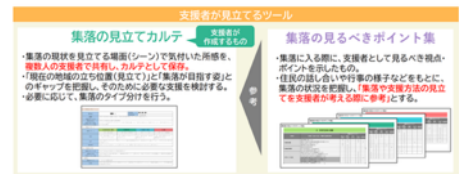
兵庫県が実施する持続可能な多自然地域づくりプロジェクト「地域づくり支援者向けサポート開発事業」に、昨年度に引き続き、（株）地域



計画建築研究所と連携し、受託。昨年度開発した地域の現状を把握し、住民のワガゴト化を進める地図と地域カルテを用いたツールをもとに、2年目は地域の見立てを行うツールを開発した。昨年度開発したツールの体験会や見立てツールの実証実施の会議ファシリテーション支援、南あわじ市での実証実施結果の整理などを担当した。

●支援者が見立てるツールとは

「支援者が見立てるツール」は、「集落の見立てカルテ」を指します。また、「集落の見立てカルテ」を作成するために、集落の見るべき視点やポイントの指針として「集落の見るべきポイント集」があります。



開発されたツールは兵庫県地域振興課のウェブサイト等で公開、市町や地域支援者に提供されている。 <https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk08/chiikishinko/networkkaigi.html>

- ・プロジェクトチーム会議に参加、ツール開発の整理、改善、検討（会議は6回）
- ・昨年度開発したツールの体験会の企画・支援（7月）
- ・プロジェクトチーム合同連絡会での試行実施の支援（12月）及びその後のツール精査等作業

●丹波市長選・市議選・市政20周年を機会とした市民の政策づくり・政策討論会の企画支援

➤ TAMBA2030（丹波青年会議所との共催）

[自主事業]

<https://tamba2030.net/>

丹波市政20年という節目の年であり、丹波市長選挙・市議会議員選挙も行われる機会に、丹波市含め地域が大きく変容するこれから約5年間の丹波市のあり方、今後の市政（政策や施政者）への期待や政策提案を市民ともに対話し、意見をまとめ、それらも踏まえて、選挙前に候補者の公開アンケートや討論会を、丹波青年会議所と連携し、企画・実施した。

一連の取り組みについて、市民からこれからの丹波市、また投票にむけてよく考え、投票に行く良い機会となったとの評価を得、市民の市政参加とその機運・意識醸成につながった。加えて、当法人の役割や存在意義を市内に広めることにもつながり、丹波青年会議所や連携協力してくださった団体や市民、議会と連携した地域づくりのきっかけともなった。具体的な取り組み経緯と成果はポータルサイト（<https://tamba2030.net/>）に掲載している。

TAMBA2030 -さあ、私たちの手で丹波市の未来を描こう

- ・丹波青年会議所との共同記者発表（6月）
- ・市民ワークショップ 丹波市の未来をつくる政策アイデア市民会議の企画・実施（7-9月計4回 延べ参加者45人+新聞社複数）
- ・市長選立候補予定者・市議選立候補予定者対象の公開アンケート実施・公開（11月 延べ1,000人の閲覧）
- ・投票に役立つ情報集の作成・公開（10月）
- ・市長選立候補予定者公開討論会（11月）来場者・YouTube Live視聴者約500人、YouTubeアーカイブ視聴者数約4,000人（2025年4月時点）、後日FM805たんばでの放送（2回）
- ・実施にかかる賛同寄付受入（約9万円・約60人）

4. 事業実施体制（法人運営・管理業務）

（1）機関会議

①通常総会

- ・ 2024 年 5 月 22 日（水）19 時 00 分～20 時 30 分、丹波市市民プラザ会議室及び zoom にて通常総会を開催した。
- ・ 出席正会員 25 名（委任表決、書面表決者含む）の出席により成立し、「2023（令和 5）年度事業報告及び決算（案）」及び「役員（理事・監事）の選任及び役員報酬」を承認した。

<https://tam-en.org/sokai2024/>



②理事会

- ・ 年 4 回の通常理事会と 1 回の臨時理事会を開催した。概要は次の通り。

回	日時・場所	出欠	議決事項
第 1 回	2024 年 5 月 14 日（火） 18 時 30 分～19 時 30 分 @丹波市市民プラザ会議室 及び zoom	出席理事 8 名中 6 名 出席監事 2 名中 2 名	・ 2024（令和 6）年度事業計画及び予算 補正（案）について ・ 2024（令和 6）年度通常総会議案につ いて
第 2 回	2024 年 9 月 20 日（金） 19 時 00 分～21 時 00 分 @丹波市市民プラザ会議室 及び zoom	出席理事 6 名中 6 名 出席監事 2 名中 2 名	・ 議決事項は特に無し （事業進捗や体制、新規事業を協議）
第 3 回	2024 年 12 月 19 日（木） 19 時 30 分～21 時 40 分 @丹波市市民プラザ会議室 及び zoom	出席理事 6 名中 4 名 出席監事 2 名中 2 名	・ みんなの丹波 100 への賛同について （事業進捗や体制、新規事業を協議）
第 4 回 （臨時）	2025 年 2 月 8 日（土） 19 時 00 分～21 時 00 分 @丹波市市民プラザ会議室 及び zoom ※欠席役員の会議を前日に 開催、その意見もふまえて 理事会で議決した	出席理事 6 名中 4 名 出席監事 2 名中 1 名	・ 丹波市市民プラザ指定管理中間評価結 果への対応について ・ 朝来市受託業務の契約延長依頼の対応 について
第 5 回	2025 年 3 月 28 日（土） 19 時 30 分～21 時 30 分 @丹波市市民プラザ会議室 及び zoom	出席理事 6 名中 6 名 出席監事 2 名中 2 名	・ 2025 年度事業計画（案）及び予算（案） について （関連）役員報酬支払い額について

③事務局会議

- これまでと同様に、運営する丹波市市民活動支援センタースタッフミーティングと兼ねて、毎月会議を開催した。ミーティングでは地域支援に必要な知識や市民活動支援のスキル、社会教育、人権等に関するスタッフ研修を毎回行い、教養を高めた。またランチは丹波の食材やお店情報を知る機会とし、担当が情報を収集して調達し、全員で一緒に食べることでスタッフ相互のコミュニケーションも図った。

回	日時・場所	研修内容（会議内容は非公開：割愛）
第1回	2024年4月1日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・地域防災
第2回	2024年5月6日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・暮らしの足と地域づくり 地域内交通の制度
第3回	2024年6月10日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・選挙/市政参加
第4回	2024年7月1日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・ファシリテーションと図解
第5回	2024年8月5日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・農業について話ができるようになる
第6回	2024年9月2日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・相談者の課題を整理するために
第7回	2024年10月7日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・多様性を受け入れる ～ダイバーシティ・イクイティ&インクルージョン～
第8回	2024年11月4日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・NPO 法人の実務について
第9回	2024年12月6日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・文章力 読み手に伝わる文章術を身につけよう
第10回	2025年1月6日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・ホスピタリティの実践
第11回	2025年2月3日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・自己理解から相互理解へ
第12回	2025年3月3日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・下水道・浄化槽



(2) 事務局体制

- ・ 4月末に1名退職により職員は減ったものの、昨年度から募集してきた新スタッフを5月に採用。労務や経理・税務など事務を中心に従事し、安定的な事務局運営を強化した。
- ・ 雇用契約を結ばないが事業ごとにスタッフとして参画する4名のサポートスタッフがワークショップや情報誌デザイン等に携わった（専門性：デザイン／ファシリテーション／グラフィックレコーディング／プロジェクトマネジメント）。
- ・ 地域伴走支援体制として、昨年9月から引き続き、地域おこし協力隊が参画。当法人とは個人事業主として契約を結び、人材育成をしながら一緒に地域の支援を実施している。
- ・ また、4月より丹波市地域伴走型支援者を雇用、地域支援業務に参加した。ただ、9月末に一身上の都合により退職した。欠員に対して継続し丹波市地域伴走型支援者を募集し、来年度から1名採用を決定した。
- ・ トライやる・ウィークに氷上中学校2年生3名を受け入れた（主に市民活動支援センター展示や子育て学習センターのサポート等）

(3) 会員・支援者、ネットワークの拡大

①会員交流会

- ・ 通常総会では、役員、職員以外の会員の参加が少なく、交流会は開催しなかった。
(役員改選があったため、第1回理事会後に役員、職員での懇親会を開催した。)

②現会員とのコミュニケーション

- ・ 会員継続の呼びかけやメーリングリストやメールニュース等を活用する予定であったがほとんど活用することができなかった。

③ メディア等掲載による PR

- ・ TAMBA2030 や市民活動支援センター主催「たんばまなびのマルシェ」、「ミーツ丹波」、プラザ市民会議から生まれた企画「お願いポスト-みんなで全力応援プロジェクト-」「みんなの定例記者発表」など、地元新聞社を中心に多くのメディアに紹介いただき、たんえんや事業のPRにつなげた。掲載記事は法人ウェブサイトにも掲載している (<https://tam-en.org/#about>)



※2024年度の主なメディア掲載：26件（昨年比+19）

(4) 組織運営体制の構築

①PR ツールの強化

- ・ ウェブサイトに事業や実績等の情報を積極的に掲載した。
- ・ 法人パンフレットを作成する予定だったが実施できず、来年度、今一度検討する。

②確実な事務局運営

- ・ 税務・労務等、事務局内部で整合を図りながら、法律・制度に基づいた手続き・納付等を行なった。
- ・ 多様な働き方を前提に、スタッフが役割発揮でき、効率的な業務を推進するために必要な ICT ツールをこれまで通り活用した。NPO 向け支援メニュー（Microsoft、Canva、ストレージサービス、グループウェア等）も活用した。
- ・ 市民活動支援に関するスキルや情報についての研修はもちろんのこと、指定管理者としても求められる部分である、相談対応やホスピタリティに関する研修にも力を入れた。

以上